

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	こども発達支援センター 保育所等訪問支援		
○保護者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	72	(回答者数) 14
○従業者評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○訪問先施設評価実施期間	2026年2月1日		～ 2026年2月28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	50	(回答者数)
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月30日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	訪問先と利用者の仲介役として機能している。	訪問先の事情や保護者の状況を把握し、相互理解が進むよう心がけている。	必要に応じて、訪問先や保護者との話し合いを行うことで、情報共有や直接要望を聞く機会を設けている。
2	他職種の訪問支援員が配置されており、訪問先とは異なる視点で見ることができる。	ニーズによって適切な職種や状況によっては複数名での対応をすることができる。	複数名で取り組んでいるため、情報共有を行うことで、より細やかな希望や状況を把握しサービス提供していく。
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問支援員間での情報共有が希薄になりやすい。	担当を持ち、複数名で関わっていることで、情報共有が希薄になりやすい。	支援での困りごとの情報共有や定期的なミーティングを実施していく。
2	職員の研修受講の機会が少ない。	訪問支援員向けの研修自体が少ないことと、訪問に行くことでなかなか研修受講の時間の確保が難しい。	職員に研修の受講を促していく。
3			